

## 開催にあたって

「あかり」は、人びとの生活にとってなくてはならないものです。夜中に入れば暗いというあたり前の人びとの暮らしの中で、「あかり」に対する様々な工夫・改良が生活を豊かにしてきました。そして現在は、太陽光エネルギー、発光ダイオード(LED)、有機ELなど新しい光源が登場し、「あかり」にとって大きな変革期となっています。

そこで本展『あかり物語』は、これまで使用されてきた「あかり」の歴史を紹介し、さまざまな「あかり」の資料を通して先人の生活の知恵を学びます。また、暮らしに豊かさや家族団らんの楽しさを与えてくれた「あかり」の、これからの姿を考えてみたいと思います。

今回は館蔵資料に加え、山水秀一郎氏(米沢市)の「あかり」資料、近年注目されている有機ELや県内高等学校が取り組んでいる研究成果など、最新のあかり資料も展示いたします。

開催にあたり、多くの方々からご協力をいただきました。厚く御礼申し上げます。

平成23年12月  
山形県立博物館長 菅野史郎



## 関連行事

## 展示解説会

2011年12月23日(金) 2012年1月21日(土)  
午後1時30分から

## 関連講座

2012年1月7日(土) 午後1時30分から

## 友の会講演会

2012年1月21日(土) 午後2時から  
山形県立東根工業高校

## やまがたを知るスタートライン

## 山形県立博物館

〒990-0826 山形市霞城町1-8  
TEL:023-645-1111 FAX:023-645-1112  
<http://www.yamagata-museum.jp/>



2011年12月23日(金) - 2012年2月19日(日)

山形県立博物館  
YAMAGATA PREFECTURAL MUSEUM

## たき火のあかり

人が最初に利用したあかりは、草や木を燃やすたき火です。調理や暖をとるためにも使われましたが、屋内では「囲炉裏」、屋外では「庭火」、携帯用として「松明」などが代表的なものです。



## 油のあかり

油皿に灯芯を立て、灯芯の吸い上げた油に点火して使用しました。古くは胡麻などの高価な植物油が使用されましたが、江戸時代には、菜種油が量産されるようになり広く使われるようになりました。



## ろうそくのあかり

ろうそくは液体の油より移動時の安全性にすぐれているといえます。古くその種類は、「蜜ろうそく」、「松脂ろうそく」があり、江戸時代以後には漆やはぜを原料とした和ろうそくが作られるようになりました。



## 石油のあかり

明治時代になると、様々な西洋文化が日本に浸透し始めました。そのひとつがアメリカから輸入された「石油ランプ」です。石油を使った明るく便利なランプは、屋内用として普及し、まもなく国産化が始まりました。



## ガスのあかり

日本におけるガス事業は、明治5(1872)年に横浜から始まります。明治7年には、東京に85基のガス灯が点灯されました。当初ガスは灯火用(街灯用)として使用され(後に調理・暖房用にも)、ガスの主成分は石炭から得られる石炭ガスでした。

## 電気のあかり

始まりはアーク灯でしたが、一般用として普及しませんでした。その後、「白熱灯」が登場します。安全性が高い電球は急速に進化しますが、戦後、消費電力が少なく寿命の長い「蛍光灯」が登場し、現在さらに省エネが進んだ「LED」が注目されています。



## 絵にみる灯火具

私たちの暮らしの中に登場してきた様々な灯火具。この灯火具がどのように使われたのか、錦絵や小説の挿絵などを通して当時の様子を感じてほしいと思います。



「火をおこす」(6分)  
「あかりの工夫」(5分30秒)  
「浮世絵版画にみる灯火具」(6分)  
(一関市博物館所蔵・日本のあかり博物館製作)

## 資映像